



笠井かなえの活動レポート 9月議会報告

～子育て・介護をひとりぼっちにしないまちに～

みなさまのご意見、現場の声を
お聞かせください。
TEL・FAX：0940-37-0700
Mail：munakata@fnet.gr.jp

一般質問

◆子どもへの新型コロナウイルスワクチン接種について

8月より12歳から15歳の子どもにワクチン接種券が届くようになり、副反応に対して保護者から不安の声が上がっています。接種は任意です。接種をする、しないの判断をするためには、メリット、デメリットも含め正しい情報を得ることが重要と考え質問しました。



●子どもと保護者に信頼できる情報を

市ではホームページに「12歳から16歳未満の皆様へ」と題した項目を新設し、厚生労働省が作成した資料を掲載しています。郵送されたワクチン接種に関する説明書にはホームページのことは記載されてはいませんでした。

接種はあくまで任意で、接種をするかどうかの判断は子どもと保護者がしっかり話し合うことが大切と考えます。そのためには、わかりやすくまとめた資料が必要です。早急に渡せるよう学校での配布を要望しました。

〈市の回答〉

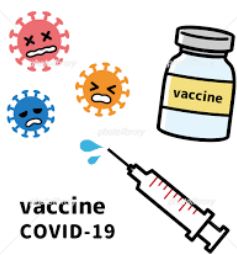
発信は広報紙、チラシ、スーパーでのチラシの配置、ホームページ、LINEを使って行う。学校での配布は今後教育委員会で協議する。

●差別やいじめが起こらないよう配慮を

ワクチン接種をするか、しないかを決めるのは家庭の考えや状況で違います。どちらを選択したとしてもそれぞれが尊重されること、また、いじめや差別が起こらないようすることが大切です。学校では子どもや保護者への啓発に取り組むことを要望しました。

〈市の回答〉

子どものワクチン接種は個別接種を原則とし、学校での集団接種は行わない。学校では、朝のホームルーム活動などを通して指導を行っていく。保護者に対しても学校のホームページ、懇談会、学校だよりで周知して行く。



●子どものワクチン接種の保護者同伴について

子どものワクチン接種は、接種に対しての注意事項を理解し、接種前、接種後における体調の異変に気づきやすい保護者が付き添うことが前提の個別接種が望ましいとされています。大人に比べて接種の場が少なく、日程も限定的で、仕事で保護者が2回の接種に付き添えないことがあると想定されます。保護者の代わりに、日頃から子どものことをよく知っている祖父母や大人が付き添うことができるよう、委任状を発行することを提案しました。

◆令和2年度決算 ネットは意見を付けて賛成しました。

宗像市の令和2年度決算

普通会計 **歳入** 487億8千万円（前年比110億8千万円増） **歳出** 475億1千万円（前年比110億5千万円増）

令和2年度は国からコロナ対策の給付金（1人10万円）が約97,000人の市民に支給された分97億円とコロナ感染症対策のためのお金14億4千万円が交付されたので、前年よりも110億8千万円増加しています。

注目の議案

○学童保育所の指定管理者の指定について

ネットは賛成しました。

（宗像市では、平成18年より学童保育所の運営を指定管理者制度により行っています）

令和4年4月から4年間、学童保育所を運営する事業者が決まりました。これまで赤間と吉武を除く15施設のエリアを南北に分けていたものが、来年度から1つに統一されます。

☆吉武小学校学童保育所は吉武コミュニティ運営協議会

☆赤間小学校学童保育所は赤間コミュニティ運営協議会

☆それ以外の学童保育所15施設は、シダックス新大東ヒューマンサービスに引き続き委託が決まりました。

評価できること・要望したこと

○スクールソーシャルワーカーが増員

スクールソーシャルワーカーが2人から3人に増員されました。学校訪問を行うなど、相談しやすい環境が作られています。対応できる件数も増えました。

○産後ケアの充実を

宗像市の産後ケアは、国のガイドラインに沿っていません。今、孤独な子育てをしている母親が増えています。安心して生み育てるためには産後ケアが必要不可欠です。産後ケアの充実を要望しました。

○市民活動（事業）への補助金の確保を

コロナ禍により休止している市民活動が多いため、決算額は少なくなっています。コロナが収束したとき、以前の様な活動を再開できるよう、補助金はコロナ前の金額を確保することを要望しました。

